

CaridianBCT社 買収について

2011年3月7日

**テルモ株式会社 代表取締役社長
新宅 祐太郎**

買収の概要

- **対象企業:** CaridianBCT社
(米国、コロラド州)
- **株式取得の相手先:** Gambro AB
(スウェーデン)
- **買収価格:** US\$2,625M
- **クロージング:** 4月から5月 (予定)

成長戦略の実行に向けて

『新しい成長機会』での大型買収

2010年5月 決算説明会資料より

2. 新しい成長機会の追求

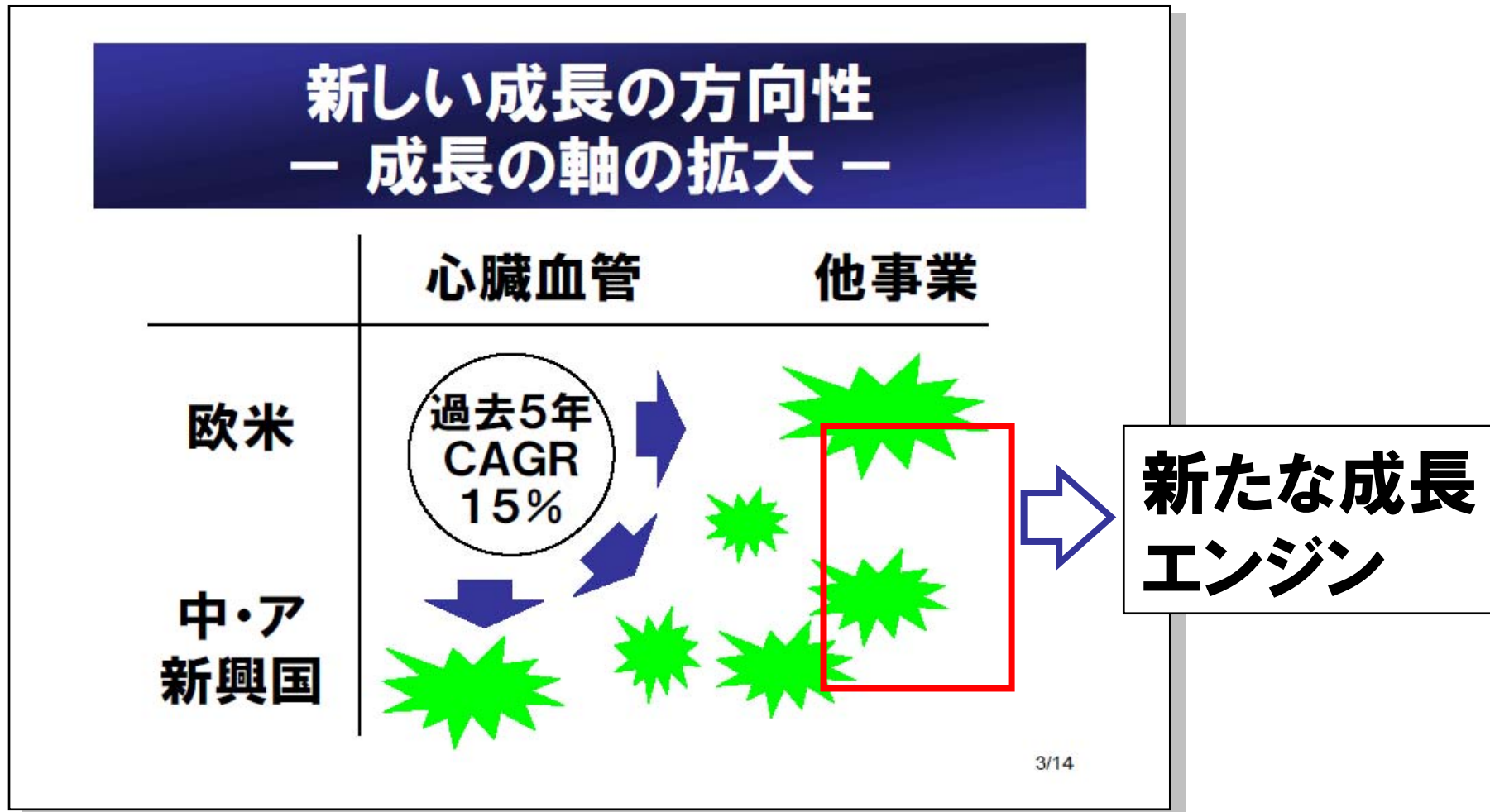
- ①新時代のドラッグ&デバイス
- ②グローバル糖尿病事業
- ③医療インフラとしての血液事業
- ④低侵襲治療のさらなる拡大
- ⑤普及期に入る補助人工心臓

今回の買収により
グローバルリーダーに

5つの分野で、今後も自力成長・提携・M&Aを推進

もう一つの『成長エンジン』

2010年5月 決算説明会資料より



買収の意義

■ 世界で拡大する医療への貢献

- 先進国: 高齢化
- 新興国: 医療インフラの整備






■ 差別化された分野での成長

- 参入障壁の高い市場

■ 技術・販売面での強い補完性

- 既存製品から新技術まで
- 新興国から先進国まで

成長戦略の全社展開

- **心臓血管**  **イノベーションの推進**
- **血液**  **グローバルリーダーへ**
- **ホスピタル**  **ドラッグ&デバイス世界展開
高齢者・慢性期医療**
- **糖尿病**  **世界で拡大する需要への対応**
- **新興国市場**  **中国、インド、ブラジル戦略**

取締役 副社長執行役員

中尾 浩治

輸血関連市場

献血(採血)



遠心分離



保存



患者へ輸血



- 輸血は医療に不可欠
- 人口増加と医療水準の向上により、長期に世界で輸血の需要が拡大
- 新規参入が殆どない業界(新興国を除く)

テルモの主な製品

自動製剤システム



無菌接合装置



血液バッグ



成分採血



CaridianBCTの主な製品

成分採血



治療アフェレシス



病原体低減システム



自動製剤システム



細胞培養システム



(2010年上市)

CaridianBCTの概要



本 社 : **米国 コロラド州 (非上場)**

業 績 ※ : **売上高 US\$524M (2010年度12月期)**
CAGR12% (10年間)

営業利益 US\$126M (2010年度12月期)

拠 点 : **32カ国 / 2工場 (米・英)**

社 員 : **約2300名**

C E O : **David Perez**

顧客コンタクト・ポイント

血液銀行・血液センター
成分採血

病院/ラボ
治療アフェレシス

既存



64%

24%



病原体低減システム

自動製剤システム

細胞培養システム

新規



7%



(2010年上市)

■高い技術開発力

遠心分離をベースとしたイノベーションにより、
成分採血装置・ディスポ・ソフトウェアをソリューション
として提供

■血小板採血にフォーカス

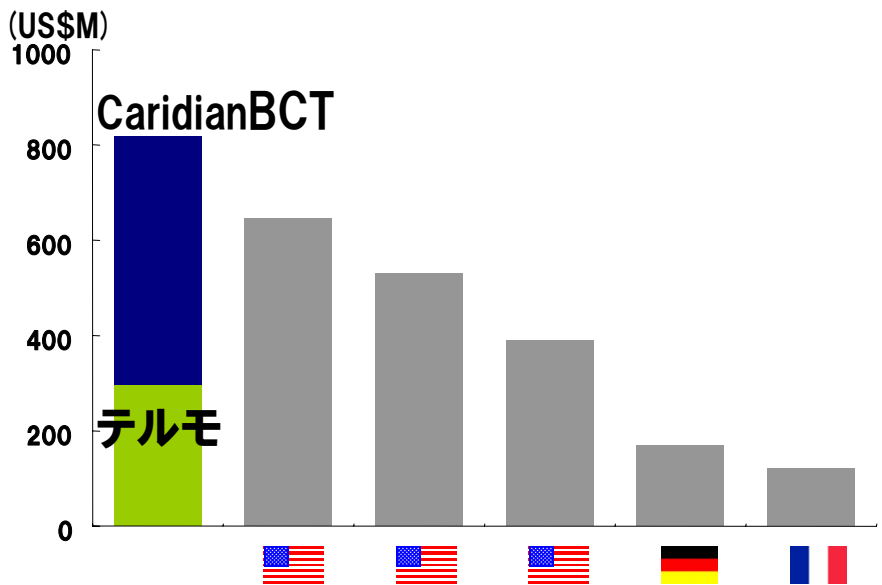
成分採血は、高い技術力を背景に売上の64%を占める
主力事業。特に、高付加価値の血小板採血に注力し、
高いシェアを獲得

買収の効果

テルモ + CaridianBCT ⇨ 血液マネジメント事業



米・大手メーカー買収で世界のトップ



(US\$M)	欧	米	日	他
Caridian BCT	170	260	20	80
テルモ	50	40	105	95
計	220	300	125	175

■業界トップ

- 売上高：US\$820M
- 輸血関連市場で高いプレゼンス
- 血小板市場で強い商品力

■地域的に相互補完

- 新興国から先進国まで

血液マネジメント事業の二桁成長を目指す

■高齢化する先進国

- がん治療（化学/放射線）の増加 → 血小板需要の拡大
- CaridianBCTのコア事業

■人口増加と医療水準が向上する新興国

- 汎用から高付加価値まで需要が拡大
- テルモ+CaridianBCT = 幅広い需要に対応



■新しいテクノロジーの開発

- 自動製剤システム



- 病原体低減システム



- 細胞培養システム



テルモのグローバル経営の新たなステージ

■テルモとCaridianBCTの事業を統合

■米大手メーカーの経営 / 事業インフラを獲得

買収の効果

■世界市場で業界トップの確立

■拡大する市場で二桁成長

■グローバル経営モデルの進化

財務インパクト

■ 損益への影響

- のれん償却、無形資産等についての詳細は確定次第公表

■ EPSへの影響

- 現時点の試算では、のれん償却前のEPSは初年度よりプラスに寄与

■ 株主還元

- 従来どおり、安定的な配当を重視

《おことわり》

本資料には、将来の予想に関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述は、「期待します」、「見込みます」、「ことになります」、「目指します」、「予定です」、「予測します」、「将来」、その他、これらと同様の表現、または特に戦略、目標、計画、意図などに関する説明という形で示されています。多くの要因によって、本資料に述べられている将来の予測に関する記述と大きく異なる実際の結果が将来発生する可能性があります。かかる要因として、以下が含まれますが、これらに限られるものではありません。(1) マクロ経済の状況または医療機器事業の競争環境などの業界の一般的な状況、(2) 規制、訴訟に関する事項およびリスク、(3) 法制上の変化、(4) 税法その他の法律の改正、一般的経済状況の変化が及ぼす影響、(5) 本件買収を完了させるための条件が満たされないリスク、(6) 本件買収のために必要とされる規制当局の承認が取得できないリスク、または、承認が得られても予測せぬ条件が付帯するリスク、(7) 本件買収の遂行に関連するその他のリスクなど。

なお、テルモは、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。